

六月句会 お題「若い」(互選) 数字は票数

④若くないこと思い知る年齢欄

あの頃は何でも出来る気がしてた

八十五まだ若者と自負してる

若僧と呼ばれた頃の恋と夢

クラス会笑える程の若づくり

遠のいた若い時代のロシア歌

若くない今日も自分に言い聞かす

漱石も芭蕉も人生五十年

⑤百歳でまた挑戦と堀江さん

⑥秀句

若いねと声かけられて老いをしる

芽吹く枝ぐんぐん伸びて親を越す

若き日の苦労買わずに回るつけ

格差無い若さ眩しい通学路

お題「甘い」播本英二選

塩足してより甘さ増し星三つ

幸せの甘い香りだパンケーキ

甘やかし卒業してもおぼっちゃま

権力を持つと優遇する身内

甘い香りにときめき知った幼年期

生来の甘えグセから抜け出せぬ

幸せな老後を夢みほくそ笑む

まずゴメン好きなケーキで仲直り

甘くも辛くも好きなように生きる

武器供与だけで済まそとするお国

悪い夢見ているだけと庇う母

甘い汁吸って地獄の味を知る

甘く見た人に真綿で締められる

砂糖水飲んで昭和を懐かしむ

秀 甘さ控えめ何とぜいたく祖母は言う

軸 無理をしてブラックコーヒー初デート

お題「先生」(連記) 森里えいじ選

どの子にも合わせる鍵を持つ教師

先生を越した自慢は背丈だけ

家庭教師してた子供も高齢者

先生と呼びあう茶番永田町

世の中に如何に多いか先生が

人生の師と仰ぐ人暇な人

師の影を踏めばいびつになる砂場

夏休み授業に來いと鬼教師

年輪を重ね師匠を出しぬきぬ

先生に恵まれてたな若い日々

わが師匠スマホだのみの道標

病名がわからず医者をはシゴする

教壇に立てて嬉しい夢叶う

杖ついた恩師の参加盛り上がる

先生と呼んだ人たち星になる

先生が年月を経て友となる

秀 あだ名はやぎ国語が好きになりました

軸 先生はすごく偉いと思ひこみ

お題「もやもや」八木哲子選

湯煙にのぼせて上がる混浴湯

共通のもやもやアテに二人酒

談笑でつきぬ心配捨ててくる

半世紀のもやもや消えたクラス会

外交の行方いずこへ拉致被害

別れ際モヤモヤ残る言葉尻

天氣のせい目眩頭にかかるもや

また自粛家飲みビール在庫なし

ふるさとをナビに入れても動かない

もやもやと夢のベールを纏う朝

消費税福祉のためと言うけれど

もやもやの陰に良心見え隠れ

もやもやの晴れる日はなく第7波

モヤモヤは心のすみの蟠り

秀 だんだんと液化化する思考力

軸 電話切りそれでも残る重い胸

お題「流れる」(共選) 近藤郁子選

お流れになつて安堵のクラス会

止めどなく想い流れるペンの先

初盆の精霊流し粛粛と

今思う流れる水は競わない

深夜ラジオ昭和歌謡の心地よさ

清流の魚涼やかに群をなす

反骨に時の流れがじゃまをする

風評に流されまいとしがみつく

ふっ飛んだ底を流れる平和主義

流されてそれでも喜寿にたどり着く

いさかいは水に流して今日もまた

いい方に親は流れを変えてやる

笹舟を流し心の闇を積む

流されてたどり着くころにはひとり

秀 逆らつて生き流されて逝く命

軸 小流れの浅く藻の花清らなり

お題「流れる」(共選) 奥村義雄選

いさかいは水に流して今日もまた

広子

幸男

登美

乃り子

基弘

哲子

郁子

きよな

えいじ

義雄

広子

えいじ

英二

郁子

基弘

きよな

充

ちさと

義雄

英二

広子

幸男

基弘

正清

哲子

ちさと

よう子

登美

充

英二

登美

正清

ちさと

千楽

充

広子

きよな

正清

えいじ

義雄

郁子

広子

身をまかす川の流れに老い先も
演説の流れを止める咳一つ
なんのその嫌みも平気聞き流す
初盆の精霊流し肅粛と
流されてそれでも喜寿にたどり着く
清流の魚涼やかに群をなす
風評に流されまいとしがみつく
深夜ラジオ昭和歌謡の心地よさ
止めどなく想い流れるペンの先
一瞬に願いをかける流れ星
流されてたどり着くころにはひとり
いい方に親は流れを変えてやる
色とりどりの傘が流れる通学路
秀 笹舟を流し心の闇を積む
軸 逆らって生き流されて逝く命

幸男
基弘
えいじ
登美
充
登美
ちさと
英二
よう子
基弘
えいじ
きよな
よう子
正清
義雄

値上げブーム手放す家は最安直
電子カルテ命預けてオンライン
コロナ禍で大阪行きもままならず
夏来たるプールの水の気持ちよさ

乃り子
仁史

心まで緑に染まる笠置山
舅の忌からすみ供えご相伴

広子

魂がなえて鬼火の先細り
ひからびてがれきの下の猜疑心

正清

腹すわり第何波でも受け容れる
ハレとケが交互に来ても困りもの

充

いややなあ真夏日続くガスの前
選挙終え金だけもらう議員いる

基弘

自由吟（自選） 柳号五十音順
弁えて猛暑相手に無理はせぬ
絶好の避暑地スーパーマーケット

アキラ

百年のながい命に恥も増え
第7波関心薄い選挙まえ

幸男

人生はこういうものと幕を引く
ほんとうのおひとりさまに友ぼつり

郁子

先妣の歳いつしか越えて梅雨明ける
病院の鎖未だに解けぬまま

よう子

一周忌笑顔で夢に現われる
予定なく用事なしでも陽は昇る

えいじ

異議ありと叫ばぬ君に棺の蓋
人生のクライマックスまだともう

義雄

西大寺エキナカ花屋大儲け
西大寺東大寺より有名に

英二

難題に取り組む孫の強さ見る
話しかけても返事重たい人もいる

きよな

八月誌上句会 八月十九日 十五時投句締め
「なるほど」義雄 「風」（連記）充
「ゆつくり」きよな 「狙う」（共選）仁史 広子
自由吟（自選） 各二句

行きづまりもがく姿の二面鏡
墓場までとるに足らずがつきまとう

ちさと

自治連合会登録の文化クラブです。
句会見学大歓迎です。 左記へお電話ください。

我は張らず腹五分目おかげで平和
医院の評価受け付けでほぼ決まり

千楽

問合せ

原 広子（79・0061）
野々村詮（090・6961・1292）

亡くなって偉大さアップ保守のドン
独りでもサブリ頼らず暮らす日々

哲子

打ち水に風鈴チリリ涼添える
風蘭の香りただよう散歩道

登美